

三国時代の仏獣鏡にみる仏と神仙の習合

後漢・三国の仏教は格義仏教であり、その布教では伝統文化の思想や用語が用いられた。仏獣夔鳳鏡は、仏が神仙と同種の神として受け入れられていたことを物語る。



龍虎座 蓮華座
光背
天蓋・傘蓋
肉髻
結跏趺坐

鄂城仏獣夔鳳鏡・3世紀

三角縁神獸鏡の焰肩仏・神仙像



焰肩仏(ガンダーラ)
2・3世紀



小金銅仏(河北省石家荘)
3・4世紀

- 1 三角縁神獸鏡の仏像は、中央アジアを通じて伝来した焰肩仏に由来する
- 2 神仙像には、「気」のかわりに焰を描くものがある
- 3 このような仏像と神仙像の習合は、三角縁神獸鏡に限られる特徴である



三角縁神獸鏡の「気」の神仙像



焰肩の仏像 群馬県赤城塚



焰肩の神仙 椿井大塚山

古代中国の鏡の呪術性 1 悪霊から身体と遺骸をまもる辟邪の宝器

- 辟邪 悪霊から身体と遺骸をまもる
- 生者 『抱朴子』登涉篇、道士、明鏡、経9寸以上…
- 死者 東園温明秘器（面罩） 遺骸を守る
魂が不老不死の世界（神仙界）で
生き続けることを期待



江蘇揚州肅家山3号漢墓 後漢

『漢書』霍光伝
皇帝から葬具の下賜

大斂の際、
死者の頭部を覆う
内面に鏡
悪霊の侵入を防ぐ

古代中国の鏡の呪術性 2 死者の蘇生

『医心方』卷14 蘇生・傷寒篇
懸鏡 死者耳前擊鏡 呼死人 不過半日 即生